4月の学習会の案内

平成 26 年 4 月 11 日

いよいよ新年度が始まりました。先生方におかれましては、年度初めのお忙しい日々をお過ごしのことと思います。本年度、小出は、４年生の担任になりました。書類の整理、など事務的な作業に追われる忙しい今の時期ではありますが、１年間のことを考え、学級開きのこの時期を改めて大切に考えないといけないと感じています。子どもとの関係作り、学級のルールの構築、子ども同士の関係作りなどにつながることを丁寧に行いながら、１日１日を大切にしていきたいものです。４月が終わるころには、順調なスタートが切れたなと思えるようにしたいですね。

さて，４月の語る会ですが，難波先生に「のはらうた」の実践を発表してもらう予定です。昨年度の２月に行われた附属小学校の実践発表の内容となります。また，年度最初の会ということですので，ぜひ多くの先生方に参加していただければと思います。よろしくお願いします。

日　時　　平成２６年４月２６日（土）９：３０～１２：００

場　所　　岡山大学教育学部附属小学校　教師教育開発センター東山ブランチ２F 中会議室

※場所にご注意ください。駐車場の敷地にある建物です。

TEL(086)272－0511　　FAX(086)271-3455

連絡先　　小出　真規（こいで　まさき）TEL　090-5704-7339

m-koide@okayama-u.ac.jp（学校パソコン）

内　容　　「のはらうた」（第４学年教材）実践の発表

発表者　　難波　香織（岡山大学教育学部附属小学校・教諭）

＜お知らせ＞

※「おもしろ見つけ」の本を，附属小でお取り扱いしております！来られる前に冊数をご連絡ください。代金引換となります。（特価！）多くの方に手にとっていただけるように，みなさん！宣伝活動をがんばりましょう！

※　駐車場について

駐車場は「教師教育開発センター　東山ブランチ」です。「実践センター」という呼び方をかつてしていたところで，学校の南西にある建物です。よろしくお願いします。わかりにくいようでしたら，当日朝，小出の携帯にご連絡いただければと思います。

※今年度の**年会費２，０００円**を集めます。よろしくお願いします。

（やめられたり休会される場合は一声かけてくださるとありがたいです。また、会員の先生方の異動情報をおもちでしたら、教えてくださると助かります。）

3月の学習会の報告

（文責　難波香織）

３月の語る会は，中央小学校の小守先生と西小学校の小寺先生による「動物の赤ちゃん」（１年生教材）の実践報告について話し合いました。

田中先生より

〇日本国語教育学会の宣伝

・全国の会員３０００人を超えた。（３月末で３２５１人）

・３１００人を維持しないと学会が赤字になる。

・岡山の会員は５０人半ば。（中国地区では広島が７５人前後でトップ）

・全国で見ると関東地区が多い。埼玉は２００人。神奈川１９０人。千葉２６０人。

・関東圏では月例会がある。（H２８年には，西日本集会がある。）

・会報が年に３回出されている。今年度の春には，自身の記事が掲載された。

「日本国語教育学会　各地の動き」“研究の仲間を増やす”より

『国語科教育でも，誰がやっても成果が上がるというような安易な方法を求める傾向がより強くなってきている。方略値を取得させることは欠かせないにしても，情意面での経験的蓄積も担う責任の柱になる。どちらの方向も学習者とそれを取り巻く社会の実態分析の上に，授業を行う一人一人の教員の教材研究の充実がなければ実現できないことである。そういう日々の取り組みを充実させていくために，国語教育学会のように目的を共有する仲間との出会いの場と研修の機会が提供される組織は重要だと思う。岡山では小学校を中心に直観の重視と読者反応の発達段階を意識した「読むこと」の指導方法が取り組まれている。昨年は「自覚的なことばの学び手を育てる国語科授業の創造」を研究主題に掲げ，第２８回中国地区国語教育研究大会（岡山大会）が実施された。熱心な取り組みがなされているにも関わらず，残念ながら今回の会員数が５０名台で伸び悩んでいる。県の規模から言えばもっと数が増えてもよさそうなものなのに。学会員になることも研究会に出ることも一定の時間と予算を使うことになる。しかし，一緒に出ようと誘ってくれる先輩，同僚の存在があって，何度か参加して自己実現のための刺激が得られたという実感があれば，それらの負担は苦にならなくなる。と言うより，楽しみになる。少しでもその楽しみを多くの人に感じてほしいと願っている。』→→→会員の参加を呼びかけていってほしい。

〇新刊の紹介

★「言語コミュニケーション能力を育てる」位藤紀美子監修（世界思想社）４，６００円＋税
　実態調査，実験授業などに基づいて仮説を立て，検証していった実証的な研究をまとめた本

★「読者反応を核とした読解力育成の足場づくり」片元隆春著（渓水社）４，５００円＋税
　自立した読者の学びを育てるために知りたいことがストレートに書かれている本

小川先生より

〇通知表の所見の書き方について。

・１学期・・・おおまかな文章。生活・学習について。

・２学期・・・焦点をしぼった詳しい書きぶりで。

・３学期・・・抽象的な書きぶり。もしくは，２学期とはちがう具体的な内容。

学期ごとにどのように書き分けるか，自分なりの観点をもっておくことが大事。

・詳細に書きすぎて，子どもの全体像が見えない文章になってもいけない。

・「～の授業を通して，～の力が身に付いた」というような寂しい文章になるのも物足りない。

・教師は，一斉授業の中で全体はよく見えるが，個別が見えにくくなる。個別をどう見ていくか。子ども

のレベルをよく見て評価していけるようにしたい。

○１年生の実態について

・１年生の姿が変わってきている。

・入学直後は，幼稚園の生活をそのまま１年生に持ち込む子どもがいる。学級づくりにかなり力が要る。

・コミュニケーション力も乏しくなっている。（話し方も幼い。手・足が出る子どももいる。）

・幼児期の対話が乏しいまま入学してくる。

・１学期は大変だが，３学期になると落ち着いていく。子どもも学級集団も成長する。

○丸ごと見つけ・おもしろ見つけの本質をさぐっていきたい。

田中先生

○小１ギャップ，中１ギャップについて

・それを解決するために，なだらかな移行が必要だと言われているが，それがいけない。

・明らかなちがいがある，ということは示さなければいけない。

・それぞれの校種の教師が，互いの指導について知っておくことが大切。

・接続は大事だが，小学校が幼稚園に逆行していてはいけない。

○論争的対話について

・自分の言いたいことを言い，相手の言っていることを聞かない，という対話の仕方。

・自分の言いたいことが言える，という点では発達している。小学校の低学年で，論争的対話が見られるようになる。

・発達段階の過程としてとらえれば，子どもへの声かけも変わってくるのではないか。

小守先生の発表　　当日の資料をご覧ください。

「どうぶつの赤ちゃん」を「ちがい」という視点から丸ごと読む

～答えを丸写しする授業からの脱却！比べながら様子や特徴をとらえる授業の在り方を探る～

１　単元名　「どうぶつの赤ちゃんをくらべよう」（第１学年）

２　単元目標

・しまうまとライオンの赤ちゃんの違いを見つけ，話し合ったり調べたりする中で，それぞれの赤ちゃんの生まれた時の様子や育っていく様子の違いや特徴をとらえて読むことができる。

・他の動物の赤ちゃんについて，様子や特徴から，しまうまとライオンのどちらの赤ちゃんに似ているか比べながら読むことができる。

３　単元計画（全７時間）

第一次　第１時　「どうぶつの赤ちゃん」を読み，筆者が伝えたかったことについて話し合い，丸ごと読みの課題をつかむ。

第二次　第１時　ライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子の違いを確かめる。

第２時　ライオンとしまうまの赤ちゃんの歩行の様子の違いを確かめる。

第３時　ライオンとしまうまの赤ちゃんの捕食の様子の違いを確かめる。

第三次　第１時　カンガルーの赤ちゃんは，（ライオンとしまうまの）どちらの赤ちゃんに似ているか比べながら読む。

第２・３時　図書資料から，他の動物の赤ちゃんは，（ライオンとしまうまの）どちらの赤ちゃんに似ているか比べながら読む。

４　学習展開　　省略

小寺先生の発表　　当日の資料をご覧ください。

1　単元名　どうぶつの赤ちゃんのすばらしさや違いに反応しながら読もう
2　学習材　「どうぶつの赤ちゃん」（光村図書１年下）
3　単元目標
・動物ごとに文章を読み比べる活動を通して，生まれたばかりの動物のかわいらしさや，厳しい環境を生き抜く能力を身に付けながら成長する動物のたくましさを感じ取ることができる。
・「かわいい」「すごい」「ちがい」などの反応を使って，動物の赤ちゃんが大きくなっていく過程を読み深めることができる。
4　単元計画（全７時間）
第一次　筆者の伝えたいことを直観し，読みの方法を身に付ける。
第１時　「どうぶつの赤ちゃん」の全文を読み，感想をもつ。
第２時　全文を読んでもった感想を交流し，第１段落で読みの構えをもち，学習課題をつかむ。
第二次　直観を確かめる。
第１時　「かわいい」「すごい」「ちがい」などの反応を使って，２段落と５段落を読み深める。
第２時　「かわいい」「すごい」「ちがい」などの反応を使って，３段落と６段落を読み深める。
第３時　「かわいい」「すごい」「ちがい」などの反応を使って，４段落と７段落を読み深める。
第三次　身に付けた読みの方法を使って，他の赤ちゃんの文章を読み深める。
第１時　「にている」「ちがう」などの反応を使って，カンガルーの赤ちゃんの文章を読み深める。
第２時　図書資料を使って，教科書に掲載された動物以外の赤ちゃんについて読み比べる。
5　学習展開　　省略

話し合いの結果

グループ1

〇子どもの実態に寄り添った実践
・ワークシートの工夫　・ＤＶＤを使った導入　・筆者を意識させた単元構想　・板書
〇丸ごと読みの利点
・読みの視点がはっきりしているので，シャープに読み進めていくことができる。
〇内容を読むことを大切にした授業
・「問い」に対する「答え」を見つける授業ではなく，内容を重視している。
・１年生の子どもなりの理由付けをしながら読めている。
・内容の面白さを味わうことで，「問い」に対する「答え」を見つけていくことができる。
〇第三次について
・第二次で身に付けた力を活用できている。
・視点をもって図書資料と触れることができている。

グループ2★小守先生の実践を中心に

〇丸ごと読みについて
・「ちがい」という視点で読むことで，ぶれずに授業を進めていくことができた。
・「ちがい」を読むことで，似ていることにも気付くことができた。
・第三次に無理なくつないでいくことができた。

・部分を取り出して読んだり，つないで読んだりすることができた。
・筆者に目を向けることができた。書きぶりの工夫にも着目させやすい。
〇授業について
・内容をしっかり学習した後，「問い」と「答え」について最後に触れておさえた。
・ワークシートは，めあてをもたせてから子どもたちに配った。
・ＤＶＤ「アニマルワールド」（増井光子さん監修のもの）に出会えたことがよかった。

グループ3★小寺先生の実践を中心に

〇「かわいい」「すごい」を中心に読んだ後，「ちがい」に目を向けさせる。
・板書を２段階にして位置付けている。
・おもしろ見つけの手法を取り入れながら丸ごと読みを進めている。
・最後に，価値のある方向に高めていくことができている。
・子どもの実態に合った手法になっている。
〇まとめ方について
・授業の最後に，「どうやって読んだらわかったのか」と問いかけ，子どもと一緒にまとめていった。
〇価値的な内容を読むことの必要性について

小川先生

〇お二人とも中身の濃いご実践
・２つのちがう実践があることで，ちがいを考えたり，ちがいによって子どもの読みがどう変わってくるかを考えたりする良い機会だった。
〇発問について
・子どもに間違わせないためのスモールステップの発問をしがちになる。
・子どもは，スモールステップのものだけではなく，教師からのとんでもない発問も期待している。
・時には，子どもを高みにもっていけるような様々な視点のものを考えていきたい。
〇まとめについて
・小寺先生は方略が強く出たまとめになっている。内容レベルを書くと，１年生にとっても分かりやすい。低次の子どもにとっては，方略重視のまとめは難しいが，それを積み重ねていくことも大切。
・この時間は何が必要か，ということを考えることで，まとめの質も高まる。
〇目的的に読むことについて
・丸ごと読みの手法を使うと，層の読みができる。
・「ちがい」という視点で読めるようになると，目的に照らして文章を読むときの経験が積まれていく。
〇丸ごと読みのメリットについて
・「かわいい」「すごい」などの一つ一つの言葉に反応する。
・つないで理由付けをする。
・比べて読む。
　　などの３つの読み方をすることができている。
〇習慣づけの大切さ
・ノートを開くこと，姿勢，鉛筆の持ち方…など，習慣づけが学習に大きく影響している。
・「比べて読む」などの読み方の習慣づけをすることも１・２年生で大切なこと。

田中先生

〇第１段落について

・お二人とも，ワークシートに第１段落の本文が記載されていない。

・第１段落をどこで集約していったのかが見えにくい形になっている。

・第１段落の読みの構えをどのように授業展開に生かしていくかを考えていくとよい。

〇授業展開について

・小守先生は，対比を主軸にしながら類比の考え方に抜けていこうとしている展開。第一次で全体を読んだ中で課題をもち，第二次で対比の読み方で展開していき，第三次では「どちらの赤ちゃんに似ているか」という視点で図書資料を読んでいく展開。

・小寺先生は，第三次では「ちがい」にウェイトを置いた展開。

〇教材解釈について

・耳や目の情報と，大きさの情報は，観点としてはちがう要素。

・鼻の情報は書かれていない。周りの情報をキャッチする器官についての情報が不足している。子どもたちの発達段階を考えて，記されていない。

・歩き方，食べ方については，「動き」についての情報。

・教材研究をしていく上で，このようなこともとらえながら考えていけるとよい。